

日本山岳会 越後支部報

第 11 号

平成26年9月24日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 橋本 正巳
新潟県上越市とよば9番地
TEL・FAX 025-524-7215
広報委員長 本間 一人



私の一枚

昭和56年7月17～23日、今西錦司先生が越後、会津の5山に登りに見えられた。機会を得て、私も17日から20日の会津駒ヶ岳まで同行させていただいた。この写真は19日御池から登った燧ヶ岳組嶺での今西先生との1枚。山頂で、美味そうにウイスキーを飲んでおられたのが印象的。

遠藤 俊一（新潟市）

高頭祭讃歌

田邊 信行

高頭祭は、日本山岳会越後支部の独自事業として位置付けられている。

ある年の支部総会の席上、高頭祭が新潟県登山祭と弥彦祭りに埋没していると受け取られているようで、支部主催を明示すべきだとの論旨は受け入れられ、現在支部会員名簿の中の支部規約の最下段に由緒ある「高頭祭」の項が設けられたものである。また、かつての支部総会はこの高頭祭において行うと定められていた。高頭仁兵衛（たかとうにへい）翁は大先輩というより越後の聖人的な方であると感じていて、だから高頭祭という顕彰行事が続けられ、今年で五十七回目を実施。爾来、高頭祭に集いし岳人は数万人となるのか、素晴らしい集い、祭りであり、開催される方々、参集される方々と諸先輩等に感謝し祭りから感動をいただいています。

高頭翁余談、高頭氏の先祖は京都の公家で、貧乏して諸国の縁故を頼って流れ、武田氏の滅亡と共に信州の高遠（たかとう）から流れてきて、故あって牧野藩主から高頭の姓を賜った。

片貝の高等小学校に遠距離を通学し体が強くなったことと、そこに地歴の先生に大平展先生（日本山岳会名誉会員）がおられ、その薫陶を受け校外授業に小木山や形山の小丘へ引つ張られて行ったり、十三歳の

夏、寺泊の海水浴に行ったとき、弥彦山に登山してその雄渾な眺望に登山の趣味を初めて理解して山が好きになった。

弥彦祭りでは、我々が松明をかざして弥彦山頂より下山し、越後一宮弥彦神社社頭にてお払い等の神事と宮司様からの激励のお言葉をいただき、引続き弥彦駅前まで松明行進を続けますが、途中火花が打ち上げられて祭り気分は更に盛り上がります。高頭翁はこの火花を作るのが大好きで、上手で付近の花火親方になったが、花火事故により、右手と両眼を負傷して、後、東京にて治療や勉学に励むこととなりました。あるとき懸賞火花で入賞し、硝石二斤貰ったが、名誉会員になったとき以上に嬉しかったとのこと。

日本山嶽志を六年間かけて数え年二十八歳、明治三十九年発刊し、その資料は約三万冊集めたこと、山嶽志は初め名山抄としたが、小島烏水氏が山嶽志としてはと、すすめてくれたので改めた由。

今年、本会の森武昭会長、高原常務理事及び神崎忠男日本山岳協会長等をお迎えし、百人が集い賑々しく開催され、森会長の講演で高頭翁の偉業、山の日設定の経緯、現状、今後の方向性等が示されたことをお伝えし、高頭祭万々歳の讃歌をお贈りする次第です。

関田峠

七澤恭四郎

関田峠は上越市板倉区上関田集落より、長野県飯山市温井集落に至る峠である。

この関田の山々には、他にも富倉峠（妙高市）、平丸峠（妙高市）、梨平峠（上越市清里区）、牧峠（上越市牧区）、字津ノ俣峠（上越市牧区）、伏野峠（上越市安塚区）、須川峠（上越市安塚区）、野々海峠（上越市大島区）、深坂峠（十日町市松之山）があり、標高は千m内外の山々の連なりの中に入り、関田山脈に組み込まれている。

またこの山脈は尾根を構成する地層が第四紀の洪積世初期二百万年前、海の堆積面が、海拔0m前後から隆起を続けて、千m以上にもなった特異な山脈である。

峠名の由来はほとんど新潟県側の麓の集落名が付いているのは、上杉時代にさかのぼって統治した時の名残のように思われる。昔から信越国境には十六の峠があったが、関田峠（千二百二十九mで別名大明神峠とも言う）については、この近くの峠の中で最も歴史がある。

古来大和朝廷の時に越の国の国府が淳足村（沼垂）にあった頃、淳足柵が大化三年（六百四十七）に設けられ（日本書記にもあり）柵戸（屯田兵）を住まわせて、東北

蝦夷支配の拠点とした時代よりあったようだ。その後磐舟柵（岩船）が出来た時は、越と信濃の民が柵戸として移されて、ここを通ったようである。

大宝二年（七百二）直江津付近が新国府になる。和銅元年（七百八）裸形上人妙高登拝、またこの年、越後の北部・出羽南部にかけて出羽郡出来る。和銅二年（七百九）陸奥・越後の蝦夷の反乱（和銅五年の古事記に載っている）。和銅五年（七百十二）出羽の国出来る。和銅六年（七百十三）吉蘇路（古東山道）の大改修。

*東山道について 大和↓神坂↓伊那↓錦織（四賀村）↓浦野（青木村）↓日理（上田）↓清水（小諸）↓長倉（御代田町）↓碓氷峠と行く。

*そのころは東海道筋は整備されていなかった。

*古東山道支道について 錦織より北上し麻績↓日理多湖（長野）これより千曲川を遡って行き、関田峠、もしくは野々海峠、深坂峠を通り、淳足・出羽方向へと行ったようである。和銅七年（七百十四）蝦夷に対する備えとして、柵戸二百戸を出羽に配した（尾張、上野、信濃、越後よりの民）。

戦国時代に入ってから、上杉謙信の父守護代長尾為景の時、信濃（中野）の高梨政盛との交流をした。これにより謙信の時

代に、高梨氏が本願寺門徒であったために、北陸本願寺門徒衆の根回ししたが、上洛（第一回目天文二十二年「千五百五十三」、第二回永禄二年「千五百五十九」）のきっかけを作り、二回もできたのも、この峠を通つての交流と思われる。また北信の武将村上義清（天文二十二年「千五百五十三」）をはじめ、武田信玄に敗れた諸将が越後に落ち延びたとき通つたところのようである。川中島の戦いの中で一番の激戦、第四回永禄四年（千五百六十一）上杉軍一万八千人のなかの四分の一はここを通り、退却経路も富倉峠か関田峠かと言われている。

此のように一般道とともに軍用道としても活用された峠も上杉会津移封と共に荒廃した。松平忠輝時代にまた復活し、口留番所も設置して道を開いたので庶民の交流も始まったようである。元禄十三年（千七百）関田村と温井村は関田の大明神と申すところを双方合意の国境として、相証文を作成し取り交わした。嘉永二年（千八百四十九）関田嶺修路碑建つ。その後本当に多くの人々が経済的な生活交易道路や文化的なものを交流して利用するようになったのは、幕末からである。鉄道の信越線（千八百九十三年「明治二十六」）が出来るまでは、交易が盛んに行われたが、その後は衰退の一途をたどった。

この列記した峠の交易物は、越後側から日常物資や米、酒、海産物（塩、魚、干物）、江戸末期よりこの地方で採れた草生水油、その後明治に入つてからは和紙の原料の楮の皮、蚕に食べさせる桑の葉等が送られ、信州側からは、和紙の内山紙、絹布等が除阻な峠の道を越えてきた。

第一回公募登山 （信越トレイル・関田峠 〜伏野峠）報告

事業委員 佐藤レイ子

今年度から越後支部で公募登山を実施することになり、小山事業委員長を中心に、第一回目を六月八日（日）に行いました。

今回初めて募集ということで、石井スポーツ、好日山荘等にチラシをお願いしたが出足は悪く、その後、日報に載ったことでもうやく十七名（当日二名欠席）の参加者が集まり催行となりました。

石井スポーツ、新潟駅南口、北陸道鳥原駐車場でそれぞれ参加者に乗せ、栄パークで桐生事務局長と合流、また、浦川原で橋本支部長と今回のコースリーダー七澤自然保護委員長と合流して関田峠へ向かいました。

車中では、阿部新潟県山岳協会会長の興味深いお話を聞きながら、峠に九時半に着し、七澤さんからコースの説明があり、九時四十分に出発です。

ルートはゆるいアップダウンを繰り返して、約一時間で梨平峠に到着する。今年も雪が多く、ナベクラゼンソウはまだ出始めたばかりでした。

所々、残雪がルートを隠し、まだ一般のツアーは行われていないようで、すれ違う登山者もいません。牧の小池を過ぎると舗装された道路の牧峠に出る。

班は二班に分かれそれぞれのペースで歩き、花立山手前で昼食を取った。ブユの大群が顔にまとわり付きゆつくり休んでいられない。

その後、宇津ノ俣峠を通り、ブナの新緑を楽しみながら、まだ残雪にすっぽり覆われた幻の池を通り、今回の終点、伏野峠に十五時五十分到着した。

このルートは標高差百七十mで一見楽に思うが、アップダウンが連続し結構大変な縦走だった。



また、残雪で伏野峠まで車が入れず、三分程車道を歩いた。

事故もなく、皆様の協力が無事第一回公募登山を終了することができ、大変有り難うございました。

なお、第二回は、九月七日(日)信越トレイル(伏野峠〜天水山)、第三回は、十月五日(銀の道)を予定しています。よろしくお願います。

海のウェストン祭のこと

山田 智子

海のウェストン祭に係わる色々なことは私が記するまでもなく、皆様には周知のことですがすこしだけ振り返ってみます。

今年の第二十六回海のウェストン祭は山の日制定の関係で、これまでの五月第四日曜日から六月第一日曜日に変更されて行われました。北陸自動車道の開通にあわせて日本アルプスの日本海側の起点となる天下の剣親不知に誕生した記念の広場に、さわがに山岳会会長の小野健さんが行政に働きかけて、W・ウェストンの全身像が建立されました。

除幕式は一九八八年のウェストン師が、親不知往訪から九十四年後の同じ七月十九日に行われ、当時のJAC越後支部長佐藤一栄氏、県山協会長室賀輝男氏が出席されています。

ちなみに日本での全身像はここ親不知だけであるという。

除幕後の翌年五月に第一回「海のウェストン祭」がスタート。以後、前年スタートの白鳥山山開きと合わせ、海のウェストン祭と白鳥山山開きとなって回を重ねている。

地元のカタクリクラブの皆様が小野さん

と継続してきたイベントである。朝早い式典にもかかわらず、歴代の町長さん、観光協会長さんが祝辞を述べられており、地元根付いた大イベントになっている。まさに小野さんの信条であった「継続は成果なり」である。

小野さんには最後となつてしまった二十五回の昨年、前夜祭も例年通り小野宅に五十名近い人達が集まり、和気あいあいの楽しい宴でしたが、前夜祭は今回で最後になりますと、小野さんがおっしゃり、参会者の胸中は穏やかではなかったと思います。体調が悪く、好物のサッポロ黒ビールも飲みたくなく、暫く口にされていないと言う。

翌日の式典も元気がありませんでした。ウェストン祭の終了後に、白鳥山へ登って安全祈願祭が行われてきた事も、この日から下で行うことになりました。毎年山頂へ担いで登った一升瓶を下でお渡しして落ちになりましたがとても残念でした。一日も早い小野さんの回復をウェストン師にお願いしました。

すでにカタクリクラブの新しい会長は斉藤八郎さんに引き継がれ、会員皆様の協力を得て行くことでしょう。私達は参加することが支援の一助になるのではないかと思います。

【事務局連絡1】

大臣表彰者の連絡と報告

支部会員の櫻井昭吉氏(No.5021)が、環境大臣表彰(自然環境功労者、自然ふれあい部門)を受賞されました。表彰理由として、長年にわたり尾瀬国立公園を中心に、登山道の整備や安全登山の指導に取り組むとともに、利用者への自然解説を行うなど、自然とのふれあいや普及活動に尽力されたことが認められました。おめでとございます。

【事務局連絡2】

平成二十六年支部会費納入のお願い

今年度支部会費(¥1,000)納入のお願いをしておりますが、八月末日現在で十八名の方がまだ未納となっております。支部活動の運営を円滑に進めるため、至急支部会費納入にご協力をお願いします。郵便振込用紙を送付してありますが、紛失された方は別記の郵便振替口座に入金していただくようお願いいたします。尚、振込み手数料は、各自ご負担願います。

郵便振込口座

0052016197779
公益社団法人日本山岳会越後支部

【事務局連絡3】

越後支部会員の勧誘と加入に協力願います

越後支部では、昨年度新入会員の加入・勧誘運動の強化に取り組みましたが、編入会員二名、新入会員十名と言う新しい仲間を得ることができました。本年度も同等人数会員勧誘と加入を強力に進めたいと思っておりますので、更なる会員増加に支部会員の皆様のご協力をお願いします。

入会パンフレットと入会申込書は、事務局(桐生)にありますので是非お声かけ下さい。

【事務局連絡4】

支部会員移動連絡

(二〇一四年五月一日〜二〇一四年八月三十日)

1) 物故会員

① 荒井 辰彌 (No.6096)

二〇一四年七月逝去

2) 退会会員

① 酒井 行男 (No.10398)

二〇一四年五月

3) 新入会員

(会報「山」新入会員紹介に基づき、)

今後の住所表示は市町村のみとします。)

① 炭田 秀昭 (No.15484)

妙高市

② 諏訪 恵一 (No.15514)

長岡市

③ 菊入 好子 (No.15527)

長岡市

④ 井口 光利 (No.15533)

見附市

⑤ 井口 礼子 (No.15534)

見附市

⑥ 大場 勲 (No.15563)

新潟市

4) 支部会員総数

二〇一四年八月三十一日現在

二一六名



編集後記

気象異変で西日本は豪雨が続き大変な被害が発生している。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

豪雨とマサドといえど私の身近な山で飯豊連峰や五頭連峰が花崗岩で出来た山でその昔、羽越水害に見舞われ多くの犠牲者が出て五頭連峰は大きな熊手でひっかいたように山全体に爪あとが出来たのもそんなに昔のことではない、広島市と同じような被害が発生していた。

私達山や鉄砲水や雪崩、落雪等自然災害に動物的五感を磨き、出来れば災害弱者に役立つ人間になりたいものである。

このような天候不順は毎年あるものと思いい、まずは山での事故に遭遇しないよう気をつけたいものである。